

時津町は「うちどく」を推進しています

# たまには テレビをけして

ようじむ 幼児向け 2024年 春号



## 「もりのひなまつり」

こいで やすこ/さく (福音館書店)

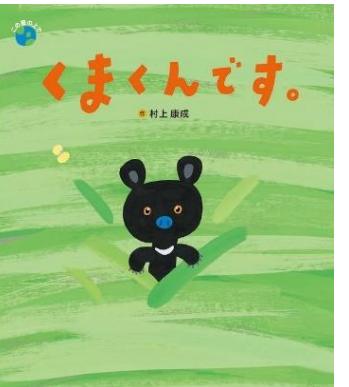
ねずみばあさんは森のそばの家のくらにすんでいます。春も近いある日の朝、森の“のねずみこどもかい”から、ねずみばあさんに手紙がとどきました。「ねずみばあちゃん いっしょのおねがいでチュ！！ おひなさまをもりへつれてきてください。」

ばあさんが手紙を読んでいると、はこの中にいるおひなさま達の声が聞こえてきて…。おひなさまたちの大移動のはじまり！

## 家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。難しいルールは要りません。家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。

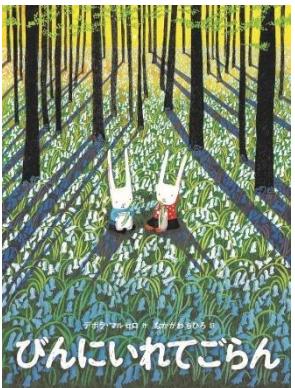


## 「くまくんです。」

村上 康成/作 (ひさかたチャイルド)

冬眠からさめたくまの親子。春の山で木登りをしたり、いろんなものを食べ、お母さんくまとくまくんがひとりで暮らしていくための準備が整いました。

ある日、くまくんはむちゅうでキイチゴを食べていました。すると、一緒にいたはずのお母さんがいません。さあ、いよいよくまくんがひとりっきりで生きていく毎日がはじまりました！

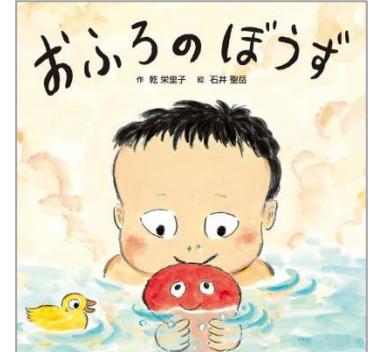


## 「びんにいれてごらん」

デボラ・マルセロ/作 なかがわ ちひろ/訳  
(光村教育図書)

うさぎのルウェリンはいろんなものをびんにあつめています。とりの羽や木の実、雨上がりの虹やひんやりした風、波の音まで。あとでびんをあけると、その時のことを思い出せるから。とおくにひっこしたともだちに送ったびんにはたくさんのがれ星。おかげしにとどいたのは…。

あなたなら何を入れるかな？



## 「おふろのぼうず」

乾 栄里子/作 石井 聖岳/絵 (ひさかたチャイルド)

ふーちゃんがおとうさんとおふろにはいります。タオルをふうせんみたいにふくらませると…赤いタオルのたこぼうずがでてきたよ！たこぼうずが、足のうらをこちよこちよくすぐってきた～。次は青いタオルで、なにぼうずがでてくるかな？

読んだあとは、おふろでタオルのぼうずをつくってみてね♪



## 「おねえちゃんていいなあ。」

くすのき しげのり/さく 岡田 千晶/え  
(校成出版社)

公園や図書館で見かける、やさしいおねえちゃんたちの姿をながめては、うらやましいと思っている女の子。

おねえちゃんがほしいとおかあさんにおねがいしても「おねえちゃんはうめないの」と言われちゃった。でも…

「おねえちゃんていいなあ」とほっこりする絵本です。



## 「たんぽぽになりたくて」

内田 麟太郎/文 南塙 直子/絵 (童心社)

たんぽぽのわたげは、笑いながらとんでいきます。また、たんぽぽになって、みんなに会えるから。

行きたいところはえらべなのに、笑いながらとんでいきます。また、たんぽぽになりたくて。

カラフルで優しいさし絵が、春にぴったりな1冊。

ときつちょうりつときつじょかん  
発行：時津町立時津図書館